

日本外交文書

昭和期Ⅱ第一部第四卷下
(昭和十年对中国關係)

外務省

序

外務省では、明治維新以降のわが国外交の経緯を明らかにし、あわせて外交交渉上の先例ともなる基本的史料を提供する目的で、昭和十一年『日本外交文書』第一巻を公刊し、既に明治・大正期の刊行を終えている。

昭和期についても、満州事変、海軍軍縮問題、および日米交渉（昭和十六年）等の特集とともに、昭和期Ⅰ（昭和二十六年）の外務省記録の編纂・刊行を終え、現在昭和期Ⅱ（昭和六十二年）を鋭意刊行中である。

他方、戦後期『日本外交文書』の早期刊行に対する要望に鑑み、平成十四年に「平和条約の締結に関する調書」を復刻するなど戦後期の編纂・刊行にも着手した。

本巻は、昭和十年の対中国関係外務省記録を編年方式により編纂し、上下二冊に分けて刊行するものである。本冊で明治期以来通算一九七冊となった。

激動の時代といわれる昭和期を顧みるにあたって、本巻が正確な史実を提供し、外交問題の歴史的
研究に資するとともに、現在の国際関係を考察する上でも貢献できれば幸いである。

平成十八年三月

外務省外交史料館長

例言

一 第二次世界大戦終結に至るまでの昭和期（昭和二十一年―二十年）を次の三期に分けて外交文書の編纂を行う。

昭和期Ⅰ 昭和二十六年（一九二七―一九三一）

昭和期Ⅱ 昭和六―十二年（一九三一―一九三七）

昭和期Ⅲ 昭和十二―二十年（一九三七―一九四五）

二 各期においては、対中国関係事項を第一部、対欧米・国際関係事項を第二部とし、それぞれ編纂・刊行する。

三 本巻は『日本外交文書』昭和期Ⅱ第一部第四巻として、昭和十年の対中国関係文書を収録した。

1 本巻に収録した文書は、基本的に外務省所蔵記録によった。

なお、収録文書の冒頭に※印のあるものは、外務省所蔵「松本記録」（松本忠雄元衆議院議員が、外務参与官および外務政務次官時代に、外務省記録のうち、特に政治、外交等の主要記録を筆写したもの）に依拠した。

2 本巻ではこれら外務省所蔵記録に加え、東京大学社会科学研究所蔵「島田（俊彦）文書」中の「排日抗日関係」、「中山兵曹被射殺事件」、「上海雑誌「新生」不敬記事事件」、「華北ニ於ケル日支軍交渉（一）」、「華北ニ於ケル日支軍交渉（二）」、「灤州事件関係綴」、「北支自治運動（冀東政府・冀察政權）」、「支那ノ幣制改革1」、「支那ノ幣制改革2」および国立国会図書館憲政資料室所蔵「憲政資料」中の「牧野伸顕関係文書」より文書を補填した。なお、東京大学社会科学研

究所所蔵史料より補填した文書については冒頭に◎印を付し、国立国会図書館憲政資料室所蔵史料より補填した文書については、末尾にその旨を記した。

3 収録文書は、原則として原文のままとした。

4 収録文書には、一連文書番号および件名を付し、各事項ごとに日付順に配列した。

5 収録文書中発電月日不明の電報は、着電の日付を記し、1月15日のようにカッコを付して区別した。また、原文には発電月日が記されていないが、他の外務省所蔵記録から特定される場合は、その発電月日を採用し、2月18日のようにカッコを付して区別した。

6 収録文書中右肩に付した(1)(2)(3)等の記号は、同一番号の電報が分割されて発電されたことを示す。なお、本巻への収録にあたっては、文章の区切りではなくとも分割された箇所をもって改行した。

7 収録文書中來信については、公信番号の下方に接受日を明記し、接受日不明のものについては当該箇所その旨を記した。

8 発受信者名については、初出の場合のみ姓名を表示し、以後は姓のみにとどめた。また発受信者名に付す国名・地名は、辞令に基づく在勤地とした。

9 本巻に採録するにあたって加えた注記は、(編注)として当該箇所に明記し、その文面は各文書の末尾に記載した。

10 原文書に欄外記入や付箋がある場合は、(欄外記入)(付箋)として当該箇所に明記し、その文面は各文書の末尾に記載した。

11 収録文書中(省略)(ママ)等のカッコを付したルビは、収録にあたって記したものである。

12 押印については、公印と私印をそれぞれ〔印〕と(印)に区別して記した。

13 巻末に全収録文書の日付順索引を付した。

目次

四	中国幣制改革	535
1	通貨危機に対する中国政府の対応	535
2	英国による対中国財政共同援助提議	571
3	銀国宥化と幣制改革の実施	648
五	中国をめぐる列国との関係	767
六	満州国をめぐる諸問題	814
1	一般問題	814
2	満州国における邦人への課税問題	847
3	満州国幣制改革に対する日本の協力	868
4	列国の対満経済発展活動	892
七	雑件	926
1	華南方面における諸問題	926
2	日本軍艦の厦門税関監視船専条号臨検事件	946

日本外交文書

昭和期Ⅱ第一部第四卷 (上・下)
(昭和十年対中国關係)

日付索引

(以上 下冊)

一 日中外交關係一般 (いわゆる三原則交渉を含む)
付 在中国公使館の昇格

二 日中諸案件交渉

- 1 一般問題
- 2 日中航空連絡問題
- 3 中国関税問題
- 4 中国排日問題
- 5 上海における日本人水兵射殺事件
- 6 『新生』不敬記事事件

三 華北問題

- 1 一般問題
- 2 華北における日本軍の諸要求事件
〔梅津・何応欽協定〕および〔土肥原・秦徳純協定〕問題を含む
- 3 華北分離工作
- 4 塘沽停戦協定善後交渉
- 5 華北における日本の権益発展策

(以上 上冊)